

2019年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	2
				コース	S
	使用教科書		『詳説 日本史B』山川出版	履修単位数	5
学習目標	史料に触れながら過去を鑑み、日本という地域における文化に対する知識を深める。また国際化が進み、平成から令和へといたった時代の転換点にあたる現在、自国の歴史を学ぶ意義についての理解を深める。			評価観点	定期試験の素点を軸に、小テストや提出物の成果、授業での積極的な参加、授業外での日本史に対する取り組み方などを総合的に評価する。
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4 5	第一部 原始・古代 第三章 貴族政治と国風文化 「1 摂関政治」「2 国風文化」「3 地方政治の展開と武士」	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原北家による権力確立と、摂関政治について把握する。 ・遣唐使廃止とそれに伴う影響、余波について理解を深める。 ・この時代に形成された国風文化の学習を通じて、日本文化に対するの関心を高める。 ・武士の登場についての歴史的意義をおさえ、今後の学習への展開を図る。 			
《第1回定期試験》					
6 7 9	第二部 中世 第四章 中世社会の成立 「1 院政と平氏の台頭」「2 鎌倉幕府の成立」「3 武士の社会」「4 蒙古襲来と幕府の衰退」「5 鎌倉文化」 第五章 武家社会の成長 「1 室町幕府の成立」「2 幕府の衰退と庶民の台頭」	<ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治の終結と、院政という権力構造の展開、その後の武家政権の成立と展開(平氏政権～鎌倉幕府)について把握する。 ・政権ごとの外交政策の変化を、大陸情勢も踏まえながら学習する。 ・時代時代の文化(院政期の文化・鎌倉文化)を対比しながら学習し、日本文化への理解を深める。 ・足利政権(室町幕府)の展開と衰退を、前時代までにはあまり見られなかった「積極的な下からの影響」を踏まえ、その歴史的意義を理解する。 			
《第2回定期試験》					
9 10 11	「3 室町文化」「4 戦国大名の登場」 第三部 近世 第6章 幕藩体制の確立 「1 織豊政権」「桃山文化」	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代における文化の変遷を、それぞれの時代(南北朝期～北山文化期～東山文化期)ごとの政治状況を踏まえながら把握する。 ・幕府の衰退を背景とした地方政権の躍動を、その地域ごとに理解する。 ・大航海(大交易)時代という世界史の潮流と、それに対する日本の動きを連結し、理解を深める。 ・織田、豊臣政権の権力確立について、その過程を踏まえながら学ぶ。 ・桃山文化について、南蛮文化としての側面にも触れつつ関心を高める。 			
《第3回定期試験》					
12 1 2	第6章 幕藩体制の確立 「3 幕藩体制の成立」「4 幕藩社会の構造」 第7章 幕藩体制の展開 「1 幕政の安定」「2 経済の発展」「3 元禄文化」	<ul style="list-style-type: none"> ・徳川家康の権力掌握について、その過程を踏まえながら学ぶ。 ・徳川政権(江戸幕府)の特異性や特徴を前時代と対比させながら学び、現代に繋げることで関心を高める。 ・幕政の転換と安定について、その背景に留意しながら理解を深める。 ・世情の安定がもたらした経済発展について、その構造と影響を把握する。 ・幕政安定と経済発展がもたらした元禄文化について、文化の中心層を踏まえながらおさえる。これにより、江戸後期の文化への連結を図る。 			
《第4回定期試験》					
3	第8章 幕藩体制の動揺 「1 幕政の改革」	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の動揺の背景とそれに対する幕政改革について学び、次学年での学習への足がかりとする。 			
副教材	『最新日本史図説』第一学習社 『日本史重要語句Check List』啓隆社				

2019年度 シラバス

教科	地歴・公民	科目	世界史B	学年	2
				コース等	S文系
	使用教科書		『世界史B』 東京書籍	履修単位数	5
学習目標	世界各地で発生する様々な紛争、環境といった諸問題への関心を高め、その原因を主体的に考察する力を身につける。そのための歴史の大きな枠組みと流れを理解し、歴史的関心を高め、客観的なものの見方を身につける。地理的条件の違いや日本の歴史との関連性についても考える。文化の多様性を多角的かつ広い視野から考察し、歴史的思考力を培う。			評価の観点	定期テストの結果を基に定期的 に実施する小テストの結果、普 段の授業態度や発言等を加味 して総合的に評価する。
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4 5	文明以前の人類 オリエント世界と東地中海 ギリシア・ヘレニズム世界 都市国家ローマ	自然環境が人間生活に大きく影響することの理解をベースに、人類の進化の過程を理解する。 農耕と牧畜の始まりと新石器時代の到来、農耕文化の伝播の流れに対する理解を深める。 各地で展開される特徴ある文明の比較を通じて類似点・相違点を明確にし、各文明の理解を深める。 現代の我々の生活にも大きな影響を残す宗教の成立過程を学ぶことで、現代の抱える諸問題を考えるきっかけにする。			
《第1回定期試験》					
6 7 9	ローマ帝国の繁栄 ペルシア人 南アジア世界	各地域の類似性や相違性を意識させ、その違いの要因を考える。 ギリシア・ローマの歴史の学習を通じて、民主主義とは何かを考える。 古代インドの社会の成立を、インドで誕生した宗教の成立とからめて、その特徴を理解し、日本も大きな影響を受けていることを理解する。 マウリヤ朝やクシャーナ朝の発展を仏教を中心に、ヒンドゥー教の成立をグプタ朝とからめて、以降のインド世界の基盤が形成されたことを理解する。			
《第2回定期試験》					
9 10 11	東アジア世界 騎馬遊牧民国家の興亡 東南アジア世界 アフリカ・オセアニア・古アメリカ	殷や周の国家体制と政治の特徴を両王朝の比較を通じて理解する。 春秋・戦国時代の社会の変動、諸思想の出現がその後の中国に大きな影響を及ぼしていることを理解する。秦漢における中央集権的専制国家の形成について、周辺地域とも関連づけて理解する。 騎馬遊牧民の内陸ユーラシア世界における役割を理解する。シルクロードを舞台とした人やものの交流について理解を深める。 東南アジア世界の海域世界としての特徴を理解し、グローバル社会とは何かを考える。 こうした中国の動きに隣国である日本も大きな影響を受けていることを理解する。			
《第3回定期試験》					
12 1 2 3	イスラーム世界の形成 ヨーロッパ世界の形成	イスラーム教成立の経緯とその特徴を様々な宗教との比較を通じて理解する。 諸民族へのイスラーム教の普及に伴うイスラーム世界の拡大、地方政権の成立と発展について、イスラーム文明の特徴とからめて理解し、イスラームが拡大する背景について考察する。 ビザンツ帝国の動向、スラヴ人の諸国家の形成について学び、東ヨーロッパへの理解を深める。 フランク王国とローマ教会の結びつきが西ヨーロッパ中世世界の形成につながったことを理解する。 封建社会の形成とその特徴および商業や都市の発展、遠隔地商業圏の成立、中世の都市生活を理解する。 教皇権の拡大と、十字軍の背景や影響について、西欧世界の膨張という大きな動きの中で理解する。			
《第4回定期試験》					
副教材	『グローバルワイド最新世界史図表初訂版』 第一学習社 『要点マスター 世界史B整理ノート』 東京書籍				

2019年度 シラバス

教科	地歴公民	科目	倫理	学年	2
				コース	S文系
	使用教科書	『高等学校 新 倫理 改訂版』 清水書院		履修単位数	2
学習目標	先人の思想を学ぶことにより、自らの生き方を積極的に考え、自分とは何者であるかを考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。			評価の観点	定期試験を軸に、授業への意欲的な参加や、関心の高さ、授業態度、社会に対する関心度などを、総合的に評価する。
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4	・青年期の課題と自己形成 青年期の意義 自己の理解に向けて	・心理学の立場から、「青年期」に特有の課題について学ぶ。 ・防衛機制やアイデンティティの確立など、青年期に特有の発達課題を学ぶ。			
5	・人生における哲学 神話から哲学へ 古代ギリシア思想	・なぜ「善く生きる」ことを考えなければいけなかったのか、善くとは「善」なのか、初期自然哲学からソクラテス・プラトン・アリストテレスを中心にヘレニズム思想まで、歴史的背景を踏まえ考察する。			
《第1回定期試験》					
6	・人生における宗教 キリスト教	・人々が「宗教」に何を求めたのか、「宗教」が人に何を与えたのか、啓展の民「世界3大宗教」の共通点、異なる点に留意しながら学ぶ。			
7	イスラーム 仏教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの3つの宗教にはある重大な共通点があります。それにもかかわらず、なぜ現代では対立するようになったのでしょうか、其の背景を学ぶ。			
9	・人生の知恵 中国思想 ・現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳	・日本人の道德観の根幹にかかわる中国思想の始まりを学ぶ。諸子百家とよばれるものの中から、特に儒学と老荘思想を深く学ぶ。 なぜ人間は「考える葦」なのか、私は何を知っているのか、愚かで崇高な人間について語った人物を学ぶ。			
《第2回定期試験》					
9	自然や科学技術と人間との関わり 民主社会における人間のあり方	・キリスト教が万能ではなくなった中世以後のヨーロッパ思想について学ぶ。(近代哲学の始まりといわれるベーコン・デカルトからカント・ヘーゲル、功利主義・プラグマティズムなどが対象)			
10	自己実現と幸福	・20世紀の哲学である実存主義や新しい政治思想だった社会主義を学ぶ。(現代思想の特色までを網羅)			
11	個人と社会とのかかわり 現代における理性の問題				
《第3回定期試験》					
12	・日本の風土と外来思想の需要 日本の風土と伝統	・なぜ日本語で「みずから」と「おのずから」を同じ漢字を当てはめるのか、なぜ日本ではクリスマスと正月を矛盾なく受け入れるのか、その根本を学ぶ。			
1	仏教の伝来と隆盛 儒教の日本化 日本文化と国学	・古代から日本人はさまざまな宗教を受け入れながら、自分たちに合う形として積み重ねてきました。古代から現代まで、日本人はどのような文化・思想を形作ってきたのかを学ぶ。			
2	近世庶民の思想 西洋近代思想の需要	・明治に入り、西洋思想が一気に日本に入ってきた結果、さまざまな問題が発生した。文学などを通しその内容を学ぶ。			
《第4回定期試験》					
3	現代の諸課題と倫理 生命倫理・環境倫理	・現代社会では様々な分野で、改めて倫理的な側面がクローズアップされつつある。医療・環境・家族・国際関係、これらの分野で、今何が問題とされているのかを学ぶ。			
副教材	『最新図説倫理』 浜島書店				

2019年度 シラバス

教科	公民	科目	現代社会	学年	2
				コース等	S理系
	使用教科書		『現代社会』東京書籍	履修単位数	2
学習目標	<p>・人間の尊重と科学的な探究の精神に基づき、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。</p> <p>・現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。</p>			評価の観点	<p>定期試験の結果、出席状況・提出物・小テストを中心に、授業態度や発問に対する解答などを踏まえて総合的に判断する。</p>
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4	<p>・わたしたちの生きる社会 地球環境、資源・エネルギー問題 生命倫理、情報化の進展</p>	<p>・現代社会における、地球環境・資源・エネルギー問題について、その原因と国際的な取り組みの状況、今後の課題について学ぶ。</p> <p>・臓器移植や出生前診断など、医療技術の発展が倫理的課題を生んでいることに触れ、幅広い視野に立ち考える。</p>			
5	<p>・現代社会と青年の生き方 青年期の発達課題 進路と生きがいの創造</p>				
《第1回定期試験》					
6	<p>・よりよく生きることを求めて 哲学と人間 宗教と人間</p>	<p>・「人間とは何か」という問題を、古代ギリシア思想や中国の諸子百家などの源流思想ではどうとらえていたのかを学ぶ。</p> <p>・宗教とは何かという問いを、三大世界宗教から考える。</p>			
7	<p>近代科学の考え方 人間の尊厳 人間性の回復を求めて</p>				
9	<p>日本の伝統思想の考え方 外来思想の受容と日本人の自覚</p>				
《第2回定期試験》					
9	<p>・日本国憲法と民主政治 民主政治とは</p>	<p>・歴史的な観点から民主主義はいつから始まったと言えるのか、どのように発展したのか、現在ではどのような仕組みで各国が取り入れているのかを学ぶ。</p> <p>・日本国憲法の3大原則を改めて振り返り、憲法によって保障される国民の権利にはどのようなものがあるのか、また新しく必要とされている権利とはどのようなものなのかを学ぶ。</p> <p>・日本国憲法三大原則の一つである平和主義と国家の安全保障をどう両立させているのか、具体的法律を基に学ぶ。</p>			
10	<p>・日本国憲法の基本原理 日本国憲法と三つの原理</p>				
11	<p>基本的人権の保障と新しい人権 平和主義と安全保障</p>				
《第3回定期試験》					
12	<p>・日本の政治機構 国会と立法</p>	<p>・日本国憲法では国会と内閣の関係をどう規定しているのか、それぞれの役割と課題について学ぶ。</p> <p>・国会の持つ立法権と内閣の持つ行政権に対し、裁判所の持つ司法権はどのような役割があるのかを学ぶ。</p> <p>・国家に対する地方の役割とは何かを学ぶ。</p> <p>・議会政治の中心である政党と、議会の代表者を決める選挙の仕組みについて学ぶ。</p>			
1	<p>内閣と行政 裁判所と司法 地方自治</p>				
2	<p>・現代政治の特質と課題 選挙のしくみと課題</p>				
《第4回定期試験》					
3	<p>政党と利益集団 世論と政治参加</p>	<p>・議会政治の中心である政党と、議会の代表者を決める選挙の仕組みについて学ぶ。</p>			
副教材	<p>『要点マスター現代社会』東京書籍</p> <p>『新版最新現代社会資料集2019』第一学習社</p>				